

和菓子業界の課題について考え、新たな商品を提案する

2022年度国際日本学部 崔ゼミナールの活動報告

国際日本学部 崔ゼミナール



みなとみらい祭の一日目の販売終了後

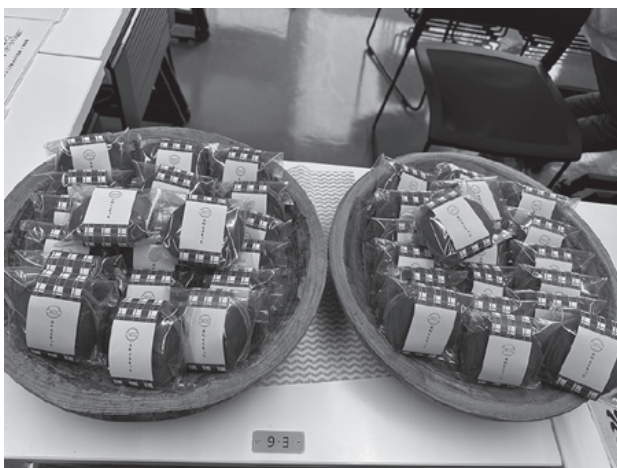
について深く考え、それを若者離れが進んでいる和菓子を通して次世代に伝えていくという、文化継承の側面があったことだと思います。自分たちが一から考えたアイデアを実際に形にしていくなかで、実践における難しさを学びました。学生の立場で、企業の方々と協力をして新しいものを生み出す楽しさもありましたが、実際に商品を販売するにあたって、商品名・コンセプト・ターゲット層の理解・販売方法・宣伝方法など、多くのことを考えなければいけない点は大変だったと思います。

（真邊 想楽）

今までの取り組みを通して学んだこと

本ゼミナールのコンセプトは、「地域資源を観光に生かすための手段を考える」ということでした。和菓子の定義や文献研究からゼミナール活動が始まりました。3年次の前期は、和菓子に関する先行研究レビューを通して、現代社会における和菓子の需要や若年層の和菓子離れなどに関する理解を深めました。それらを踏まえ、「香炉庵」という元町に本社のある和菓子屋と事業計画を立

ち上げることになりました。私たちは、三つの班に分かれて、新しい商品開発などの提案を行いました。



学生達が企画・販売した「元町レトロ」のどらやき

私が所属した班では、新商品の開発、顧客アンケートの実施、季節に応じたイベントの実施を提案しました。しかし、このときは、現実性につい

我々のプロジェクト

本プロジェクトに関わりながら、私たちが生活している地域の良さやアビールポイントを再発見することができました。今回のプロジェクトの意義は、私たちの学びの場である横浜と元町の良さ

てあまり考慮していなかったもので、私たちの提案は一蹴されてしまいました。後期は、11月に開催される本学の「みなとみらい祭」に向けて、商品開発やアンケートの実施、イベント企画の作業を進めました。私は、消費者調査班に所属し、アンケートの質問の作成などに努めました。多忙を極めました。充実した時間を過ごすことができました。

私は、グループでの活動を通して、事業を立ち上げるとき、その事業の現実性や可能性を十分理解することの大切さを学びました。何かを始める上で、しっかりと未来のことまで予測し、計画することの重要性について、実践を通して確認できました。

(植木 郁)

商品企画班の一員として

私が所属した商品開発班では、商品の決定、販売個数、価格設定、商品名、キャッチコピー、帯とチラシのデザイン、教室のレイアウトなど、商品を販売したみなとみらい祭の当日までの準備に時間をかけました。私たちが3年前期で企画・発表した「元町レトロ」のコンセプトとの繋がりが親和性も意識した取り組みに出来るよう尽力しました。私は、よく周りの意見に流されてしまうことがありましたが、今回は妥協をせず班の皆と時間をかけて話し合い、考え抜き、意見を出し合ったことで納得のいく結果になったと思います。

(小澤 優澄)



生放送出演で商品PR

イベント企画班の一員として

私は、本プロジェクトに関わりながら、アイデアを出すことを頑張ってきましたが、結果として、あまり良いアイデアを出すことができなかったと思います。前期のプレゼンテーションでは、具体的な食べ歩き和菓子を提案することができなかったし、後期のみなとみらい祭で実施した「和菓子シアター」のクイズラリーイベント開催でも反省したい点がありました。参加者の感想では、「楽しかった」というコメントを多くいただきました。参加率があまり高くなく、より多くの人々を惹きつけるアイデアがあったのではないかと考え

ました。クイズラリーは、適切な難易度で問題を作ったつもりでしたが、お客様にとっては難易度が高かったようで、そのような部分を解決するために、本番の前に誰かにお試して問題を解いてもらうなど、適切な難易度かどうかを細かく確かめれば良かったと思いました。今度、イベント企画をするときに、どのようにしてアイデアを考え、仕上げたら良いのか、さらに勉強したいと思いました。また、準備の際に、早めに行動できるようにしたいと思いました。

(田口 菜々音)

後輩に伝えたいアドバイス

私がこのゼミナールに入って学んだことは、2点あります。1つ目は「多角的な視点をもつこと」です。つまり自分の立場から離れて、第三者の視点から物事を考えるということです。商品提案をする際に、香炉庵様からは「学生ならではの視点を重要視していることを伝えられました。しかし主観的な考えは一方のみの利益になってしまいう可能性があると考えました。そのため、学生と企業を対等な関係にするために企業側の目線に合わせたメリットを含めた提案をしたところ、納得していただけの結果につながりました。

2つ目は、「ものを創造することの楽しさ」です。商品企画班全員が商品企画未経験だったため、完成までの全体の流れが掴めず右往左往してしまった時期もありました。しかし、商品が完売した時には今までの活動すべてが身を結んだことを実感

しました。また、商品購入時に商品販売に至った経緯を聞いてくださったお客様に対して自信をもってお話しできたときには、新しいものを創造することの楽しさを強く感じました。これから崔ゼミナールに入る学生さんに伝えたいことは、物事に注力した経験は、自らの成長の糧となることということです。是非崔ゼミメンバーと一緒に、1年間という希少な時間を充実したものにしてほしい。

（市野 愛花梨）



販売終了後の会計作業



みなとみらい祭の二日目の販売終了後